

## 調査の概要

### 1. 調査目的

子どもたちが心身の健康を確保し、生きる力を習得するために、健全な食生活を実践することができる能力の育成を目指した健康施策、食環境整備の方策の立案に資する資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の対象

調査は保育所10施設、小学校10施設、中学校10施設、高等学校7施設で実施した。調査票回収人数は、保育園児641人、小学校低学年児童945人、小学校高学年児童983人、中学生939人、高校生794人である。学年別、性別の人数を表1に示した。

表1 子どもの食生活状況調査 分析対象人数一覧

		所管保健所										総数
		中北			峡北		峡東		峡南	富士・東部		
施設番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
保育園児	施設番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	年少児	21	23	16	9	14	24	18	19	23	27	194
	年中児	34	27	20	24	21	16	14	32	22	27	237
	年長児	24	25	21	18	15	21	18	17	23	28	210
	男子	43	45	32	26	21	32	20	33	44	32	328
	女子	36	30	25	24	29	29	30	35	24	50	313
合計	79	75	57	51	50	61	50	68	68	82	641	
小学生	施設番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
小学校低学年	1年生	81	24	31	60	35	0	0	5	27	25	288
	2年生	26	22	22	75	40	70	74	7	22	18	376
	3年生	31	29	27	87	38	0	0	7	24	40	281
	男子	65	37	39	107	65	37	31	10	39	39	469
	女子	73	38	41	112	46	33	43	7	34	41	468
	合計	138	75	80	219	111	70	74	17	73	80	945
小学校高学年	4年生	26	31	25	106	40	70	0	4	24	21	346
	5年生	27	32	27	86	41	0	65	8	24	22	332
	6年生	30	30	28	98	46	0	0	7	23	44	306
	男子	41	52	45	148	63	40	28	9	39	38	503
	女子	43	41	35	141	64	30	37	10	32	48	480
	合計	83	93	80	289	127	70	65	19	71	86	983
小学生	合計	221	168	160	512	240	140	139	38	144	167	1929
中学生	施設番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	1年生	31	26	31	33	30	33(130)	34	33	28(85)	35	314(468)
	2年生	28	31	33	24	34	0	31	23	0	34	238
	3年生	33	28	31	28	28	0	27	26	0	32	233
	男子	51	45	48	47	47	18	49	41	13	57	416
	女子	41	40	47	38	45	15	43	41	15	44	369
合計	92	85	95	85	92	33	92	82	28	101	785(939)	
高校生	施設番号	31	32	33	34		35		36	37		
	1年生	42	40	62	39(116)		40		32	31		286(363)
	2年生	34	39	24	13		40		36	28		214
	3年生	35	40	34	0		40		39	29		217
	男子	47	72	85	24(64)		54		54	21		357(397)
	女子	64	47	35	28(65)		66		53	67		360(397)
合計	111	119	120	129		120		107	88		717(794)	

( )内の数字は回収数

### 3. 調査時期と方法

平成26年11月に、小学校4年生以上から高校生については教員立会いのもとで質問紙調査を実施した。保育園児と小学校3年生以下については保護者の記入による質問紙調査を実施した。

#### 4. 調査内容

調査内容は、朝食・夕食・おやつ・夜食の状況、食事に対する意識、起床時刻と就寝時刻、通学状況、運動・遊びの状況、テレビ・ゲームの時間、体型とダイエットの状況、不定愁訴の状況である。

#### 5. 集計分析方法

調査内容について学校種別に比較するため、保育園児、小学校低学年児童、小学校高学年児童、中学生、高校生別に集計し、分析を行った。また、男女間の比較のため各学校種別性別の集計・分析を行った。ただし、中学校のうち2校と高等学校のうち1校は、1年生全クラスを調査対象としたため、他校との間に人数上の差が認められた。そこで、各学校の平均に近いクラスを選定し、分析対象とした。

報告書の本文には学校種別の図を掲載したが、性別で大きな差が見られた場合には性別の図で示した。本文中に掲載していない図表については資料として提示した。

クロス集計、一元配置分散分析は、全対象者を分析に用いた。食意識・食行動得点の指標として、よくかんで食べるようにしている、嫌いなものも食べるようにしている、食事中に会話をする事が多いの3項目を用いた。回答はそう思う（4点）、どちらかというと思う（3点）、どちらかというと思わない（2点）、そう思わない（1点）の選択肢で求め、平均点を算出した。不定愁訴スコアの指標として、午前中身体の調子が悪いと感じる、身体のだるさや疲れやすさを感じる、やる気が起こらないと感じる、イライラすると感じるの4項目を用いた。回答はよく感じる（週に4,5回程度）（4点）、ときどき感じる（週に1,2回程度）（3点）、たまに感じる（月に1,2回程度）（2点）、感じることはない（1点）の選択肢で求め、平均点を算出した。朝食と夕食の摂取状況、生活習慣、食事の共食、体型と他の因子との関わりについて明らかにすることを目的としてクロス集計または一元配置分散分析を行い、検定の結果有意差が認められた項目を示した。

#### 6. 調査票の様式

調査票の様式を次頁に示す。

#### 7. その他

本報告書に掲載していない単純集計結果については、山梨県ホームページに掲載する。